



東日本大震災における自衛隊の活動

前海上自衛隊掃海隊群司令(海将補)
ユニバーサル造船(株)顧問
松本 幸一郎

写真提供: 海上自衛隊

自衛隊の活動の特徴

地震の特徴

- 最大規模の地震(M9.0)
- 広域な被害(東北～関東) 500km
- 高い津波(最大16m)
- 多数の自治体が壊滅的な被害
- 原発事故が併発

自衛隊活動の特徴

- 最大規模の部隊運用
- 2正面における対処(地震・津波 + 原発事故)
- 初の統合運用
- 初の予備自衛官、即応予備自衛官の招集

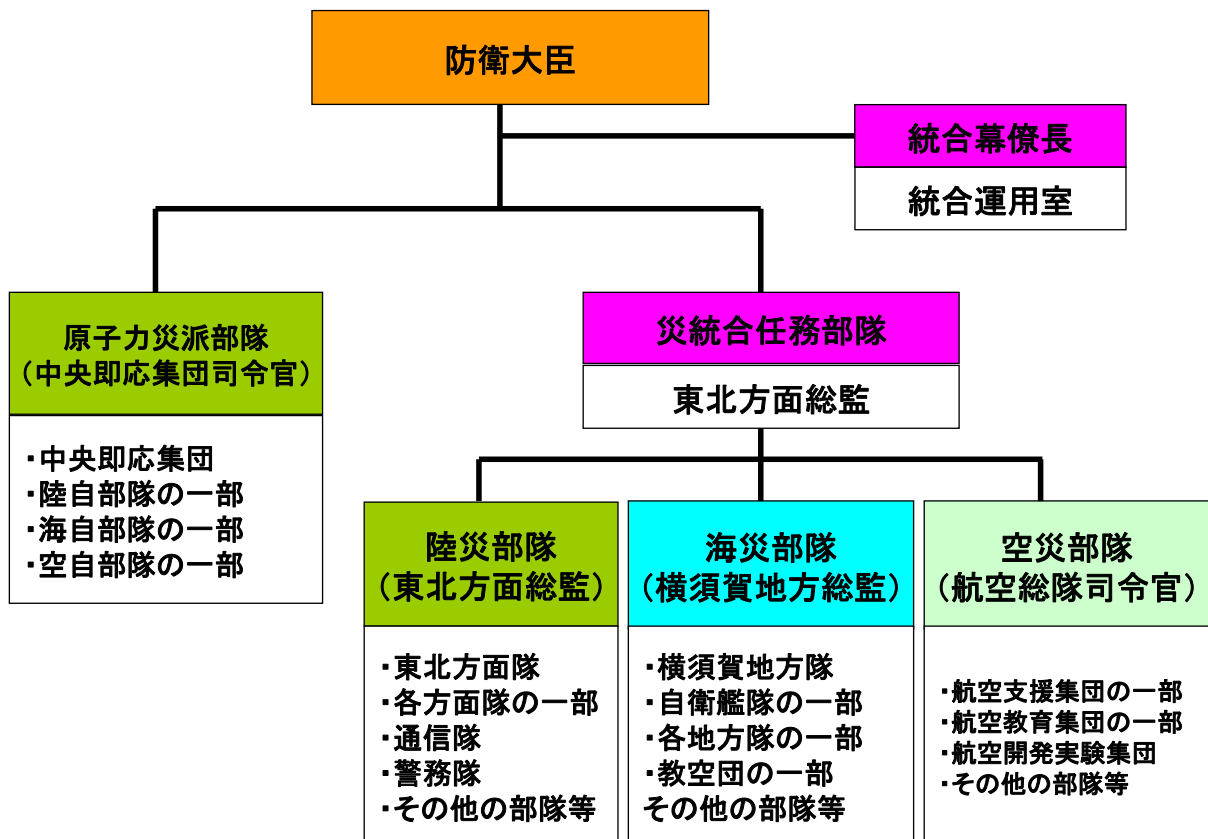
災害派遣の要請日時

発災 3月11日1446

岩手県知事	3月11日1452	6分後
宮城県知事	3月11日1502	16分後
茨城県知事	3月11日1620	94分後
福島県知事	3月11日1647	121分後
青森県知事	3月11日1654	
北海道知事	3月11日1850	
千葉県知事	3月12日0100	

(阪神淡路大震災時 兵庫県の要請 約4時間後)

災害派遣部隊及び原発対処部隊の編成



発災当日の自衛隊の行動等

発災 3月11日1446

- ① 1450 防衛省対策本部の設置
- ② 東北方面総監部連絡員を宮城県庁へ派遣
- ③ 政府調査団の現地派遣空輸
- ④ 福島第1原発オフサイトセンターに80名派遣
- ⑤ 航空機による情報収集
- ⑥ 1800 大規模震災災害派遣命令(自行災命)
- ⑦ 1930 原子力災害派遣命令(自行原命)
- ⑧ 派遣規模
人員:約8,400名(活動及び準備中)
航空機:約190機
艦艇:約25隻(活動及び準備中)

自衛隊の活動状況

自衛隊(総数)

○人員:約106,450名
(即応予備自衛官:176名を含む)
○艦艇:51隻
○航空機:490機

派遣隊員数

3月12日朝 20,000名
3月12日夕 30,000名
3月13日 50,000名
3月18日 100,000名

陸災部隊

○対処部隊:約70,000名
(即応予備自衛官:176名)
○航空機:76機

海災部隊

○艦艇:51隻
○航空機:178機
(固定翼:109機、回転翼:69機)
○人員:約14,400名

空災部隊

○航空機:236機
(固定翼:203機、回転翼:33機)
○人員:約21,600名

米軍兵力

○艦艇:15隻
○航空機:約140機
○兵員総員:約16,000名

原子力災派部隊

○人員:約450名

活動内容

大規模震災災害派遣

- ①航空機による情報収集
- ②被災者の救助
- ③人員及び物資輸送
- ④給食支援
- ⑥給水支援
- ⑥入浴支援
- ⑦医療支援
- ⑧道路啓開
- ⑨瓦礫除去
- ⑩ヘリ映電による情報提供
- ⑪避難民受け入れ
- ⑫慰問演奏等

原子力災害派遣

- ①避難支援
- ②給水支援
- ③人員及び物資輸送
- ④原子炉冷却のための放水
- ⑤モニタリング支援
- ⑥ヘリ映電による情報提供
- ⑦上空からの撮像
- ⑧集塵飛行支援

災害派遣の3原則

- 緊急性
- 公共性
- 非代替性

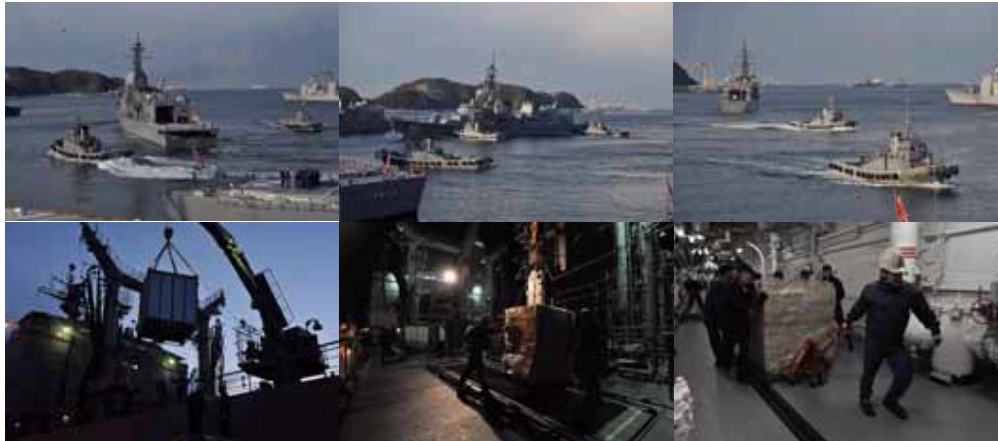
自衛隊の活動実績等

	項目	総計(概数)	活動の様子
人命救助等	人命救助	約20,000名	
	ご遺体収容	9,487体	
	ご遺体搬送	1,004体	
物資等輸送	物資等輸送	約11,500トン	
	医療チーム等輸送	約18,300名	
	患者輸送	175名	
生活支援	給水支援	約33,000トン	
	給食支援	約4,500,000食	
	燃料支援	約1,400キロリットル	
	入浴支援	約855,000名	
	衛生等支援	約23,000名	

海上自衛隊の行動等

発災 3月11日1446

- 11日 1450 防衛省災害対策本部設置
- 1452 自艦隊司令官が出動可能な全艦艇に出港命令
- 1456 P-3C哨戒機による状況偵察開始
- 1550 海自各基地から艦艇42隻出動
- 12日 0430 海自艦艇部隊の第一陣が宮城県沖に展開



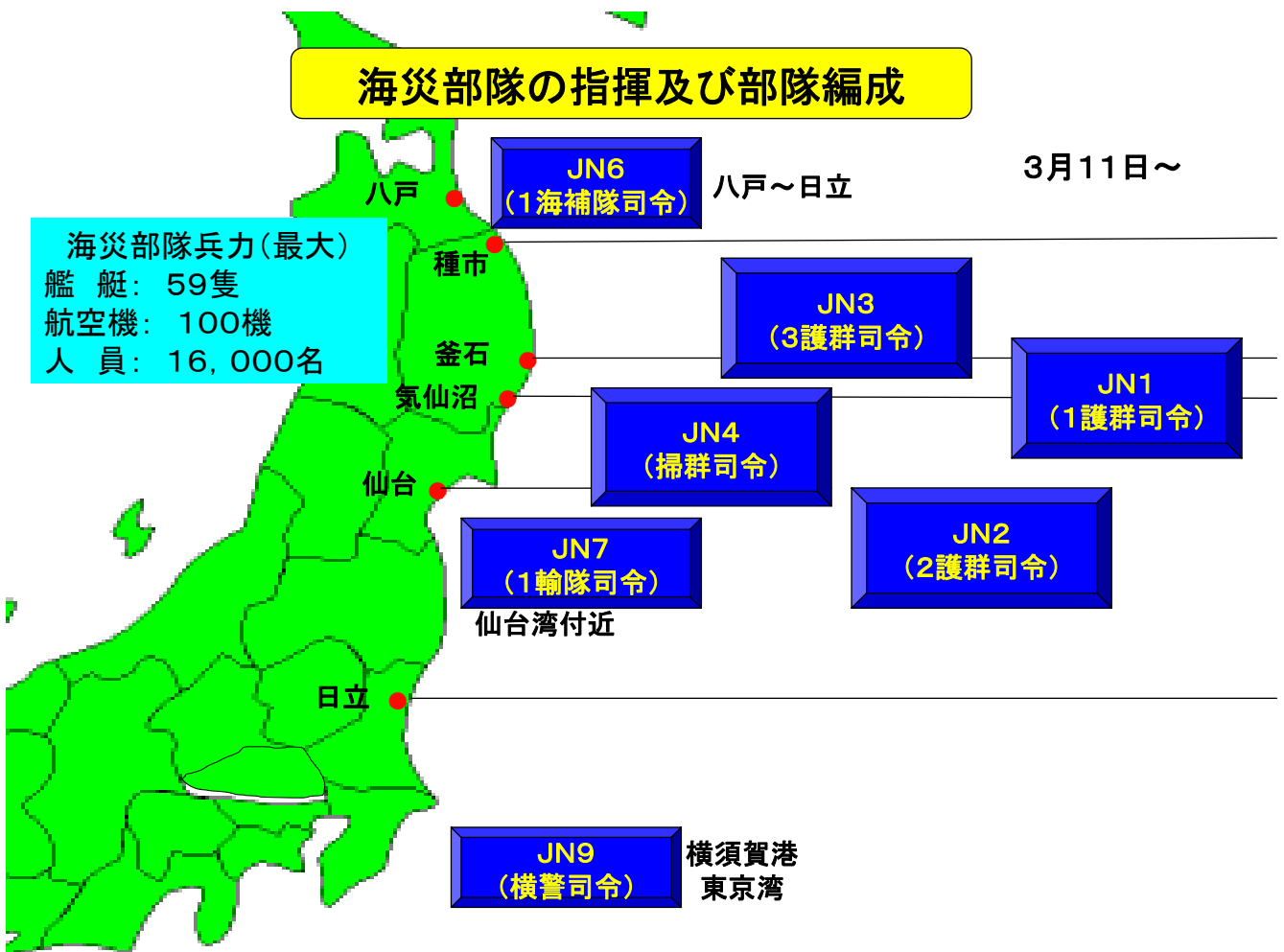
海上自衛隊の行動等(初動)

初動全力

- 部隊展開兵力
艦艇59隻(艦載HS16機)
航空機 100機
人員 16,000名
- 艦艇の修理
期間短縮・切上 12隻
修理の延期 11隻
- 海外派遣取止め 4隻(LST、MST、MSO、MSC)
- 海岸近傍基地から内陸部基地への航空機移動
(大湊、館山、岩国、沖縄 → 八戸、下総、厚木、鹿屋)

海災部隊の指揮及び部隊編成

3月11日～



海上自衛隊の主要活動

From The Sea

- 生存者捜索・救助
- 救援物資の輸送
- 港湾調査、航路啓開(支援)
- 孤立地域に対する支援
- 行方不明者の捜索・收容
- 原発事故への対応

海上自衛隊の活動実績

生存者の捜索・救助

- 当初は被災者の捜索、救助に全力
- P-3C広域捜索 → 艦艇(内火艇、HS)
- 約900名を救助
- 離島、半島先端部(陸路寸断)
 - ・「たかなみ」孤立した幼稚園児27名救出
 - ・「ちょうかい」漂流中の男性救出

生存者の捜索・救助



「ちきゅう」船内から救出される小学生



屋根につかまる漂流者を発見



内火艇で無事に救助



海上自衛隊の活動実績

救援物資の輸送

- 輸送回数: 約14,000回
- 輸送艦、補給艦 + ヘリ
- ヘリ、LCACの機動力が大活躍
- 現地において被災民からのニーズを聞く

糧食	水	毛布	ガソリン	灯油	乾電池
235千食	405KL	13千枚	60KL	92KL	66千本

救援物資の輸送



救援物資の輸送



海上自衛隊の活動実績

港湾調査・航路啓開(支援)

- あらゆる物が湾内に流出
- 海図の水深が当てにならない(堆積物、隆起・・・最大15m)
- 航行不能船舶の移動
- 海中漂流物に接触、損傷

港湾調査・航路啓開



港湾調査・航路啓開



海上自衛隊の活動実績

孤立地域の生活支援

- 「顔の見える支援」「血の通った支援」
 - ・ 御用聞きに徹する
 - ・ 同じ人が聞きに行く
 - ・ ベテラン隊員を行かせる

海上自衛隊の活動実績

孤立地域の生活支援

- 宿泊支援(約6,000名)
- 診療支援(約1,300名)
- 入浴支援(陸上、艦内・・・携帯電話充電、洗濯)
- 瓦礫等の集積、撤去、搬送作業

孤立地域に対する支援



孤立地域に対する支援



海上自衛隊の活動実績

行方不明者の捜索

- 6月初めまで毎日1～2体
- 瓦礫に隠れている遺体
- 収容に当たる者は極力年配者
- 精神的にショックを受けた者はメンタルヘルスケア

行方不明者の捜索



行方不明者の搜索



行方不明者の搜索(原発立入禁止圏内)



海上自衛隊の活動実績

原発事故の対応

- 福島第1原発への給水支援(オペレーションアクア)
多用途支援艦、曳船による米軍バージの曳航
横須賀～小名浜～福島第一原発(岸壁)
- 消防車による放水
下総・厚木航空基地の消防車4台

原発事故の対応



浦賀水道を南下するバージ

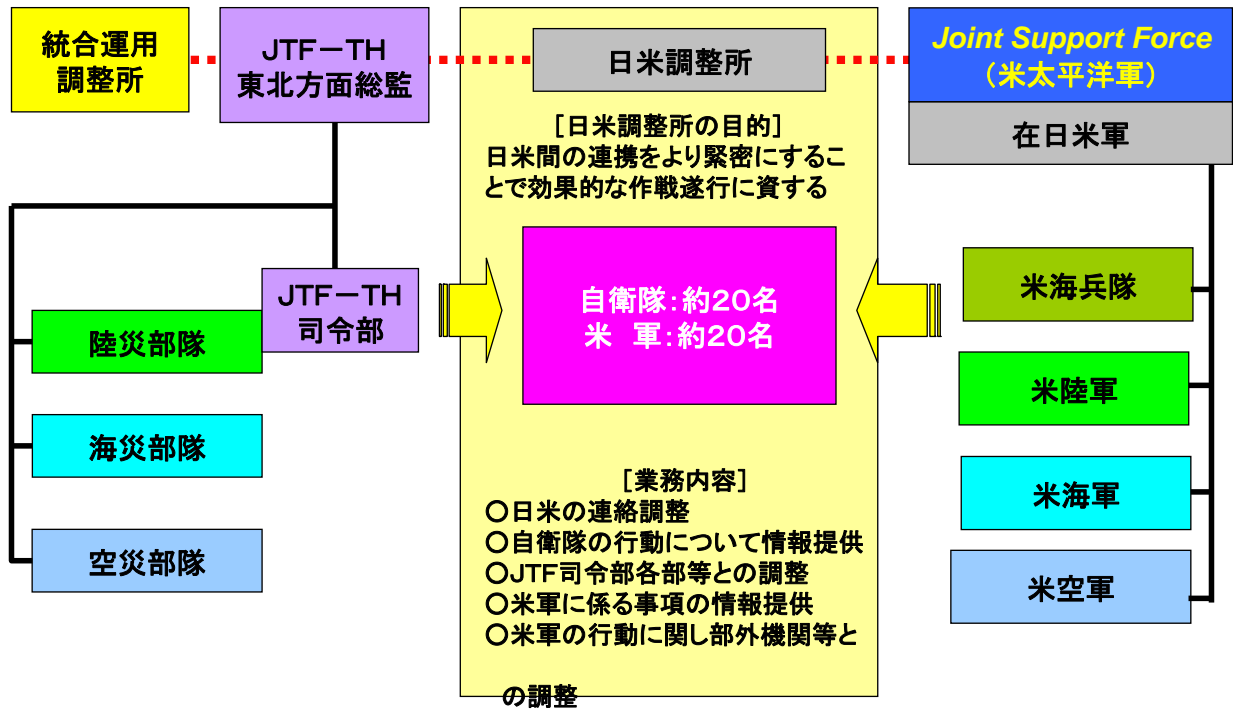
日米共同(米軍の活動)

日米共同(米軍の活動)

オペレーション「トモダチ」

- 期 間 3月14日～5月31日
- 兵 力 艦艇 15隻、航空機 140機、人員 16,000名
- 3月11日 統幕長と在日米軍司令官電話会談
- 3月12日 統幕長と米国太平洋軍司令官電話会談
- 3月15日 統幕長と米国統参議長電話会談
- 3月21日 統幕長と来日した米国太平洋軍司令官面談

日米共同調整所



米軍の活動実績

オペレーション「トモダチ」

- 物資提供・輸送支援
- 復興支援
仙台空港、港湾(八戸、宮古、気仙沼、大島)、JR仙石線、学校等
- 搜索救難
- 原発事故関連
物資貸与、CBIRFによる支援、モニタリングポスト設置

日米共同



日米共同



海上自衛隊の活動 (輸送艦「おおすみ」の活動)

東北方面隊震災対処訓練

「みちのくALERT2008」

～マグニチュード8.0、震度6強、大津波発生！～

東北方面隊は(平成20年)10月31日～11月1日の間「東北方面隊震災対処訓練『みちのくALERT2008』」を行った。これは、**近い将来高い確率での発生が予想されている宮城県沖地震**への対処能力向上を目的に、東北方面隊全部隊はもとより、他方面隊等、施設学校、海・空自衛隊並びに岩手県宮古市から宮城県岩沼市までの**太平洋に面した24自治体(宮城県、岩手県含む)**、**防災関係35機関並びに一般市民を含めた約1万8千名**が参加するとともに、被害が予想される現地において訓練するなど、今までにない規模・内容となった。

1日目は主に**被害状況の把握、行方不明者の捜索・救助、部隊集中**の訓練を、2日目は**給水、給食、入浴、医療支援**などの民生支援訓練を行うとともに装備品等の展示を行った。

